

子どもたちのアクション例(一部抜粋)

子どもたちからアクションの相談を受けるとき、最初からやりたいことや問題が明確になっていないことも多いです。

あえて、「もやもや」することは何だろう？と感情的にも引っかかる要素を丁寧に聴き出し、その子が課題に感じていることや取り組みたいことを一緒に形にしていっています。

※学年は活動当時のものです。

みんなの「もやもや」	スッキリへのアクション
<p>坂口くり果さん (小学6年生) 親の暴力や虐待によって死んでしまう子どもがいることをニュースで知って悲しい。子どもへの虐待を減らすためには、親になる人たちが、子どもには子どもの権利があることを知ることが大切だと思う。</p>	<p>親になるともらう母子健康手帳に「子どもの権利」について載せてほしいと、区長に提言。2019年4月から区で配布する母子健康手帳には、「子どもの権利条約」のことが目立つページに掲載されることになりました。</p>
<p>波田野優さん (小学6年生) 世界では貧しさのため、奴隷のように働かされる子どもたちがたくさんいて、学校に行くことができないことがわかり、なんとかしたいと思いました。「児童労働をなくしたい！」</p>	<p>児童労働の現状を調べて、そのことを学校で発表したり、オンラインイベントをしたり、メディアに取り上げてもらって、多くの人に伝えました。</p>
<p>今川つかささん (中学2年生) 「子どもの権利条約」について知ったとき、自分が条約によって守られているという喜びを感じました。同時に、子どものための条約なのに、なぜ自分は今まで知らなかったのか疑問に思いました。</p>	<p>中学校の生徒手帳に「子どもの権利条約」を掲載してほしいと、市の教育長に提言。翌年から、今川さんの母校の生徒手帳に「子どもの権利条約」が掲載されることになりました。</p>
<p>バラ☆フレ (中学生のグループ) 「発達障がい」というと、よくわからないという声や、あまり良くないイメージがあると思います。それを当事者の中学生で変えていきたい、知らせていきたい、という気持ちでグループを結成しました。なお、発達障がいの表記は、グループで話し合っ「がい」の文字にひらがなを使用しています。</p>	<p>発達障がいをポジティブに捉え、理解を深めてもらうため、発達障がいに関するオンラインイベントを開催したほか、子どもの権利について活動・発信しています。グループのSNSを開設し情報を発信中です。Insutagram：@variefrie</p>
<p>箱田晴大さん (高校2年生) 貧しくてきれいな水を飲めない子どもが世界にいること、日本でも経済的な理由や家庭環境によって、自分の夢や進学をあきらめなければいけない子どもがいることはおかしいと思う、なんとかしたい！</p>	<p>ケニアの井戸建設のためにクラウドファンディングをしたり、鈴木武蔵選手にご協力いただき、大阪の養護施設にいる子どもを無料でサッカー観戦に招待したりしました。</p>

<p>植岡 優里奈さん・田中 菜乃さん（高校3年生） 子どもの権利は子どものことだから、もっとみんなが学校で学ぶ機会が増えないかな？ 学校の先生は子どもの権利の内容についてちゃんと知っているの？</p>	<p>義務教育のなかで子どもの権利についてしっかりと学ぶ授業をしてほしいと、「学習指導要領に関する提言書」を作成しました。自治体や文科省に提出する予定です。</p>
<p>FTCJ 熊本グループ 子どもを貧困から助けるため、子どもにもできることをしたい！そんな思いで当時14歳の津田美矩さんが2002年に設立。以後、理念に共感した熊本の中高生が活動に参加しています。</p>	<p>フィリピンの人身取引の問題を伝えるため被害にあった子どもの声を七夕の短冊で紹介しつつ募金を集めたり、児童労働や気候変動を考えるワークショップを実施したりしました。</p>
<p>海洋プラキーホルダープロジェクト（高校生・大学生のグループ） 世界で増え続けている海洋プラスチック問題、このままだと、2050年には魚より海洋ごみの量が多くなると言われていてとっても心配です。</p>	<p>海洋プラスチック問題について知らせるためのイベントをしたり、プラスチックゴミを拾い、アクセサリを作って販売したり、収益を環境団体に寄付をしたりしました。</p>
<p>桃山学院高等学校 School By School（クラブ） フリー・ザ・チルドレン創設者クレイグの来校をきっかけに、「子どもにも変化を起こす力がある」ことに賛同した高校生から、教育を受けられない世界の子どもたちを助けたい！という声があがり発足。</p>	<p>フィリピンやインドの子どもたちが教育を受けられるよう募金を集め学校を建設。また、東日本大震災で被災した地域や大阪の無料塾でのボランティア活動などにも取り組んでいます。</p>
<p>大阪暁光高等学校 FTC 部 「子どもは助けられるだけの存在ではなく、変化を起こす担い手である」という FTC の理念を大切に部活がスタート。その理念に共感した高校生が興味のある社会問題に声をあげています。</p>	<p>募金活動をしたり、国内外の社会問題について調査し、その内容を発表したりしました。校内ではバレンタインに合わせてフェアトレードの材料でお菓子を作り、販売する活動等もしています。</p>
<p>National World Committee（加藤学園暁秀中学校・高等学校内ボランティアクラブ） 無意識にさまざまな差別や偏見が日常生活で起こるのはなぜだろう、差別や偏見をなくしたい！そんな思いから学校のクラブで活動をしました。</p>	<p>ジェンダー不平等をなくすため、学校内でディスカッションや性的マイノリティに関する情報を発信している松岡宗嗣さんの講演会を開きました。また、教職員を含む学校全体に対してアンケートを取って、結果を公開して性の多様性について考えました。</p>

子どものアクション メディア掲載等

朝日新聞デジタル > 記事

東京 健康・予防

apital ▶ 医療ニュース ▶ ニュース・フォーカス

シリーズ：その他

12歳の女の子「権利条約を母子手帳に」世田谷区で実現

中山由美 2018年10月26日17時00分

シェア 0 ツイート list 1 ブックマーク メール 印刷



母子手帳を手にする坂口くり果さん(左)と保坂展人区長=2018年8月15日午前10時58分、世田谷区役所、坂口さん提供

「『子どもの権利条約』を母子手帳に載せて」。12歳の少女の声に応え、世田谷区が来年度の母子手帳に条約を掲載する。「子どもでも世界を変えられる」という言葉に刺激された区内の坂口くり果さん(白百合学園小6年)が、保坂展人区長に訴え、実現した。

乳幼児健診の通知、母子手帳アプリで相模原市が導入

きっかけは2年前、坂口さんが読んだ

埼玉新聞

素晴らしい行動力！中学生3人、教育長に直談判「子どもの権利条約を生徒手帳に載せて」 誰かを救えるかも

2020/2/16 15:15 (水)

©朝日新聞埼玉新聞社



子どもの権利条約に関する啓発書を相模原市教育委員(右から左へ)に提出した(左から)伊藤美穂さん、今川つゆきさん、林川ゆきさん=28日午前、さいたま市役所

「子どもの権利条約を生徒手帳に掲載してほしい」、埼玉県さいたま市立大宮中学校2年の女子生徒3人が28日、市教育委員会の相模原市教育委員に啓発書を手渡した。3人は「当事者である全ての子どもが条約を知ってほしい」と訴え、条約の四つの柱「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」

中学生が、子どもの権利に関して手紙を書き、意見交換会が実現



子ども向け政策提言活動ガイドブック
<https://ftcj.org/we-movement/weactioncampaigns/speakup>

野田大臣に子ども基本法制定について要望の手紙を書いた岐阜の中学生





野田大臣と子どもとの意見交換会



2023.02.09 (最終更新: 2023.03.10)

フェアトレードチョコでフィリピンの子を支援 フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの子どもアンバサダー

#児童 #子ども #フェアトレード・チョコ



フェアトレードのプロジェクトに参加するものささん(右)とゆりなさん=東京都品川区

FTCJ子どもアンバサダー/ものさ、ゆりな

2023.03.11 (最終更新: 2023.03.11)

「子どもの権利」守ってのびのびと生きられる社会へ フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの波田野優さん

#子ども #人権 #児童



波田野優さん=東京都品川区

FTCJ子どもアンバサダー/波田野優



小倉怜香・こども政策担当(右)と面会した波田野優さん(中央)＝フリー・ザ・チルドレン・ジャパン提供